

第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

報告書資料 一般 - 77

学校名・団体名	守山市立明富中学校
コース	学校支援
活動・研究のテーマ	生徒用 iPad を活用した表現活動の充実

〈活動・研究の意義および活動報告〉

1、はじめに

本校では、「主体的・協働的で深い学びの実現」を主題とし、「教員の ICT 活用指導力の向上」「授業における表現活動の充実」「思考の可視化・共有の実現」の3点に重点を置いた校内研究に継続して取り組んでおり、中でも「教員の ICT 活用指導力の向上」に関しては、Apple 社のタブレット端末である iPad を中心とした ICT 活用を進めている。現在では校内の多くの教員が教師用 iPad を授業の中で活用している。この現状を踏まえ、今年度は生徒用 iPad の活用へとステップアップし、研究の重点項目である表現活動の充実や思考の可視化・共有の実現に向けた実践を進めた。

2、各教科での実践内容

各教科の授業において、生徒小グループで1台の iPad を使用し、思考の可視化・共有、また iPad を用いた多様な表現活動を実施し、学びに向かう主体性・協働性を高め、深い学びの実現に向けた実践を進めた。

（理科）実験観察における結果や考察の可視化

他のグループとオンライン上での共有

学びのプロセスをプレゼンテーションアプリで作成

互いに伝え合う表現活動

（数学科）小グループ単位での回答の共有

ディスプレイへの回答提示

図形描画アプリケーションの活用



iPad を用いた表現活動の様子

(英語科) スピーキング活動の撮影と共有
自由英作文の入力と相互評価
課題への回答とオンライン上での添削

(国語科) 音読の撮影と共有
他のグループとのオンライン上での意見共有
文章教材における場面の描画



iPad を用いた共有と相互評価の様子

3、実践の成果

毎時間の授業の最後に1時間の学びを表現する活動を設定し、生徒一人一人が表現する活動を継続したことで、次第に伝える内容を整理したり、強弱をつけたり、また時間を意識しながら話すなど日々成長していく姿を見ることができた。また、実践を重ねるにつれて1時間の学びのゴールが表現活動であるという意識を常にもって授業に望めるようになり、最初は場当たりに複数の画像や動画を撮影していたのが、どの画像をどの場面で使用するか、どの結果を説明するためにどの動画を撮影するかという目的意識を持った活動ができるようになった。

No.	項目	Mean	SD	t値
1	理科の授業にやりがいを感じる	2.83	0.68	11.47**
		3.62	0.61	
2	理科の授業がわかりやすい	2.85	0.69	7.91**
		3.46	0.68	
3	理科の授業では、よく考えたり、意見を出したりする	2.91	0.69	11.32**
		3.63	0.53	
4	理科の授業では、仲間と協力する機会がある	2.77	0.71	14.60**
		3.74	0.45	
5	理科の授業では、自分の考えや意見を表現することがある	2.74	0.68	16.82**
		3.78	0.45	

上段：平成28年4月，下段：平成29年3月，(n=167) □ $p < 0.05$ ，□物 < 0.01

質問紙調査の設問と結果の分析

理科の実践の前後で実施した質問紙調査の結果を分析し、実践の効果を検証した。質問項目及び検証の結果を右図に示す。質問には4:とてもそう思う、3:そう思う、2:あまり思わない、1:全く思わない、の4件法で回答を求めた。検証の結果、いずれの質問項目に関しても事前から事後にかけて平均値が大きく向上しており、対応のある平均値の差の検定(t検定)でも1%水準で有意な差を確認することができた。生徒用iPadを活用した表現活動を軸にした実践を通じて、学び全体が深まったと言える。

4、課題と展望

次期学習指導要領のポイントである「主体的・対話的で深い学び」に至るには、表現活動の充実だけでは不十分であることも事実である。一年間の実践を通じて生徒が感じた表現活動の楽しさや意味、また、自ら学んだ内容を話したい、伝えたい、説明したいという主体的な姿勢をベースに、より深い学びの実現に向けたICT活用の在り方を今後も模索したいと考えている。



校内研修会の様子